

岩手県における東日本大震災津波 からの復興の取組状況と今後の課題



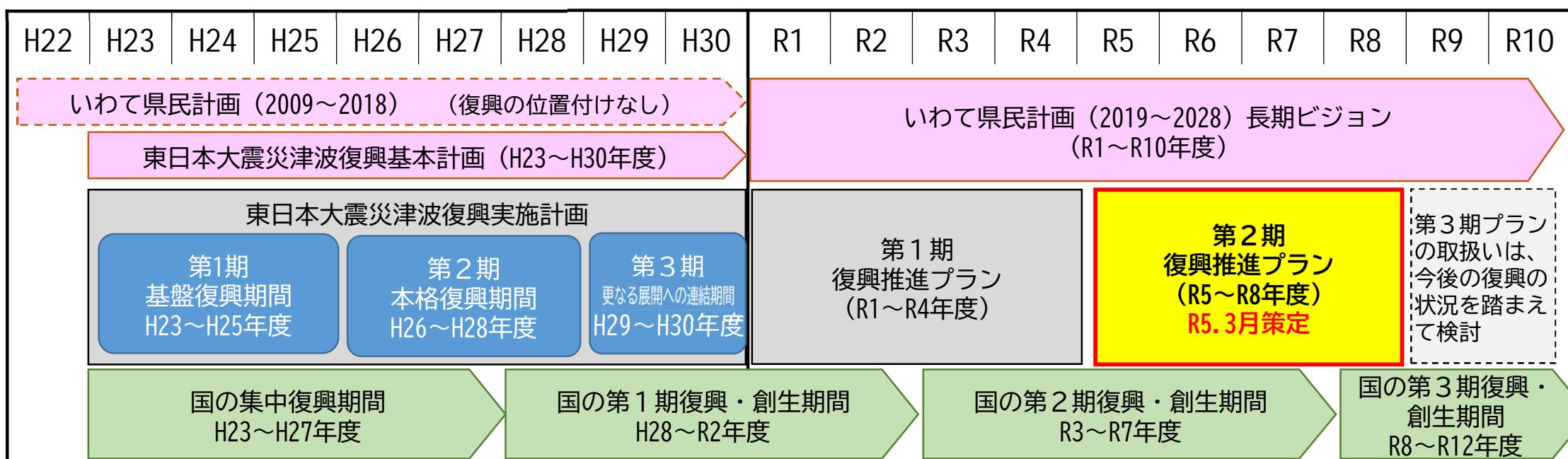
岩手県イメージキャラクター「わんこきょうだい」

令和7年9月20日(土)
岩手県

- 1 復興の目指すべき姿について
- 2 復興に向けた取組状況について
- 3 復興の課題及び今後の取組について
- 4 災害への備えについて

1 復興の目指すべき姿について①

■本県の復興関連計画の変遷



■各計画等における原則・目指す姿

- 1 「東日本大震災津波からの復興に向けた基本方針」（H23.4）を貫く2つの原則
 - ・ 被災者的人間らしい「暮らし」、「学び」、「仕事」を確保し、一人ひとりの幸福追求権を保障すること
 - ・ 犠牲者の故郷への思いを継承すること
- 2 岩手県東日本大震災津波復興計画（H23.8策定）で示した復興の目指す姿
～いのちを守り 海と大地と共に生きる ふるさと岩手・三陸の創造～

1 復興の目指すべき姿について②

■より良い復興～4本の柱～

いわて県民計画

個人の尊厳を基本価値とし「誰一人として取り残さない」という理念のもと、これまでの復興の取組の成果を踏まえ、三陸のより良い復興（ビルドバックベター）の実現のために必要な取組を実施

プランの構成

「より良い復興～4本の柱～」、「12分野」ごとに、「主な取組内容」と「県以外の主体に期待される行動」を掲載

I 安全の確保

- 1 防災のまちづくり
- 2 交通ネットワーク

II 暮らしの再建

- 3 生活・雇用
- 4 保健・医療・福祉
- 5 教育・文化・スポーツ
- 6 地域コミュニティ
- 7 市町村行政機能支援

III なりわいの再生

- 8 水産業・農林業
- 9 商工業
- 10 観光

IV 未来のための 伝承・発信

- 11 事実・教訓の伝承
- 12 復興情報発信

2 これまでの復興の取組①

～安全の確保～

■防災のまちづくり

土地区画整理事業や集団移転促進事業を活用した宅地整備を進め、**災害に強い安全なまちづくりを実現**

【復興のまちづくり（面整備）】

進捗率100%（7,472区画）令和3年3月完了



(陸前高田市)被災直後



(陸前高田市)土地区画整理事業後
(平成30年9月)

復興まちづくりと一体となった**防潮堤・水門等の復旧・整備を推進**

【海岸保全施設の要整備区間延長に対する整備率】

整備率99.7%（76.6/76.8km）令和7年3月現在



(高田地区海岸)被災直後



(高田地区海岸)令和3年3月

■交通ネットワーク

復興道路・復興支援道路・復興関連道路が完成し、県土の縦軸、横軸を構成する「**新たな道路ネットワーク**」が形成

【いわての復興道路】

進捗率100%（県内359km）

令和3年12月全線開通

宮古盛岡横断道路

35分短縮
(所要時間1時間26分)

三陸沿岸道路
仙台～八戸
3時間20分短縮
(所要時間5時間13分)

東北横断自動車道 釜石秋田線 釜石～花巻

30分短縮
(所要時間1時間21分)



至
仙台市

2 これまでの復興の取組②

～暮らしの再建～

■生活・雇用・保健・医療・福祉

応急仮設住宅の全入居者が令和3年3月までに恒久的な住宅に移行し、新たな住環境で生活

【災害公営住宅の整備】

進捗率100%（5,833戸）令和2年12月完了



(陸前高田市)栃ヶ沢災害公営住宅
県内最大規模 301戸一部9階建て



(盛岡市)南青山アパート
内陸避難者向け 99戸一部4階建て

被災した医療機関は診療を継続・再開、こころのケアなど
被災者一人ひとりに寄り添った支援を継続

【県立病院の新築移転】

進捗率100%（3病院）平成30年3月再開



(大槌町)県立大槌病院
平成28年3月再開



(山田町)県立山田病院
平成28年9月再開



(陸前高田市)県立高田病院
平成30年3月再開

■教育・文化・スポーツ

被災した公立学校施設の復旧が完了、復興教育副読本などを活用した「いわての復興教育」を推進

【公立学校施設の復旧】

進捗率100%（86校）令和元年6月完了



(釜石市立鶴住居小学校)被災直後



(釜石市立鶴住居小学校)高台に移転整備
平成29年4月から新校舎で授業開始

いわての
復興教育



↑
児童生徒の
実践発表会

←
児童生徒用
副読本
「いきる」
「かかわる」
「そなえる」 6

2

これまでの復興の取組③

～なりわいの再生～

■水産業・農林業

漁船や養殖施設等の復旧への支援、漁港及び海岸保全施設の復旧に取り組み、ハード面での復旧・整備は完了

【漁港施設等の復旧】

進捗率100%（31漁港）平成29年3月完了



(音部漁港(宮古市))被災直後



(音部漁港(宮古市))復旧・整備後

農地復旧が完了、ミニトマトやブロッコリーなどの高収益作物の導入など創意工夫を凝らした取組が展開

ガストロミー（美食術・食文化）の観点から、いわて三陸の豊かな食材や食文化を発信



高度環境制御型園芸ハウスでのトマト栽培



国内外の著名なシェフや専門家を招いての三陸フュージョン料理ツアー

■商工業・観光

中小企業等の施設・設備の復旧支援や金融支援に取り組み、沿岸地域における被災事業者の8割超が事業を再開

【中小企業等復旧・復興事業（グループ補助）】

1,573事業者 919億円交付決定（令和6年3月末現在）



(陸前高田市)アバッセ高田
平成29年4月開業



(大船渡市) キャッセン大船渡
平成29年4月開業

復興の動きと連動した観光振興を展開

三陸ならではの観光資源を活かして観光振興に取り組み、県内主要観光地への入込客数は回復傾向



↑北東北3県大型キャンペーン

←震災学習を中心とした教育旅行
(田老観光ホテル)

2 これまでの復興の取組④

～未来のための伝承・発信～

■東日本大震災津波を語り継ぐ日条例

3月11日は、
「東日本大震災津波を語り継ぐ日」です。

震災により亡くなつた多くの尊い命に追悼の意を表し、震災の教訓を伝承するとともに、これまでの復興に向けた歩みの中で得られた多くの絆を大切にし、一人ひとりの大切な人に想いを寄せ、ふるさと岩手を築いていくことを誓い、東日本大震災津波を語り継ぐ日を定めました。

■事実・教訓の伝承

東日本大震災津波伝承館を令和元年9月に開館し、令和7年9月8日には、累計来館者数130万人を達成

【東日本大震災津波伝承館来館者数（人）】

R元年度 (開館9-3月)	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	合 計
148,737	170,699	168,613	207,009	254,315	236,172	1,185,545



伝承館を含む施設全景



解説員による来館者への展示解説

■復興情報発信

「復興に力強く取り組む岩手の姿」や「国内外からの支援への感謝」を国内外に発信



第73回
全国植樹祭いわて2023
令和5年6月



いわて復興未来塾
(エクスカーション)
令和6年9月

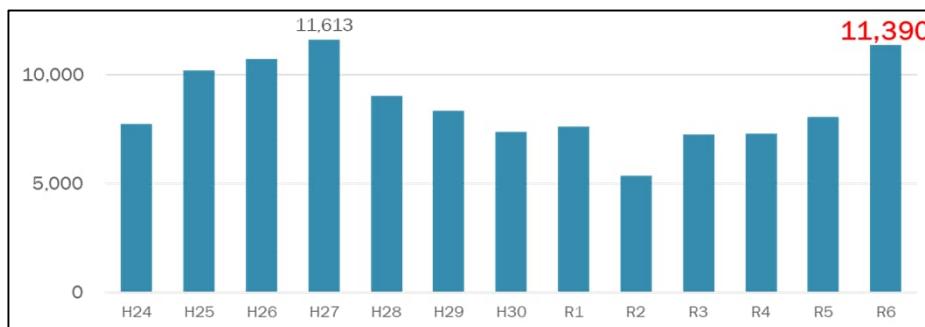


3 復興の課題及び今後の取組について①

被災者を取り巻く生活環境の変化により、抱える問題も複雑化・多様化している。

■被災者こころのケア

[県こころのケアセンター相談件数]



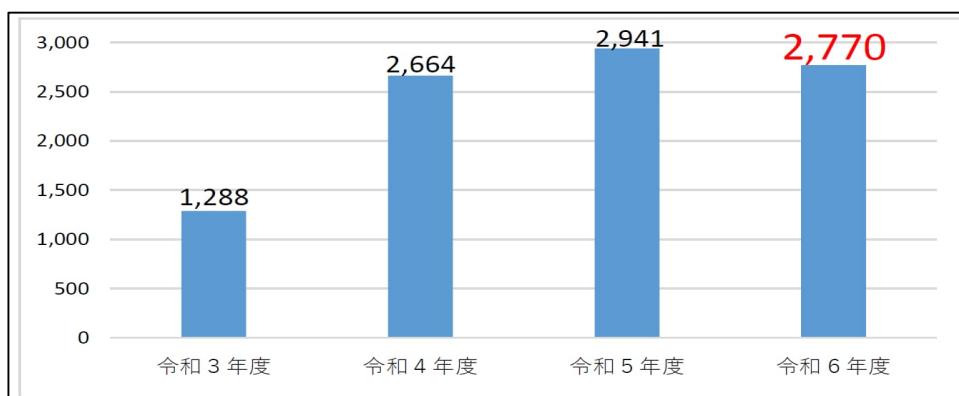
新型コロナウイルス対策のため相談頻度の調整を行った令和2年度を除き、平成30年度以降は年間7千件を超えてい

- トラウマ反応が長期的に継続し、また、未だフラッシュバック等の症状に悩む方もいるなど、被災者の心の不調には震災の影響が認められる。
- 被災地では、心のケアへの支援ニーズが高止まりしている一方、精神保健医療体制が極めて脆弱である。
- 広範にわたる被災地をカバーする専門職の配置や医師の派遣など、支援の継続が必要とされる。

「岩手県こころのケアセンター」による被災者に寄り添った支援を継続

■被災者の生活相談支援

[いわて被災者支援センター 相談対応回数]



- 相談対応回数がセンター開設当初の2倍超となっており、課題の複雑化・多様化に伴いニーズが増加している。
- 債務整理や家族間の問題等、震災との因果関係が認められる相談が多く寄せられている。
- 顔見知りのいる市町村等ではない主体が伴走支援や専門家による相談などを行うことに意義があり、支援の継続が必要とされる。

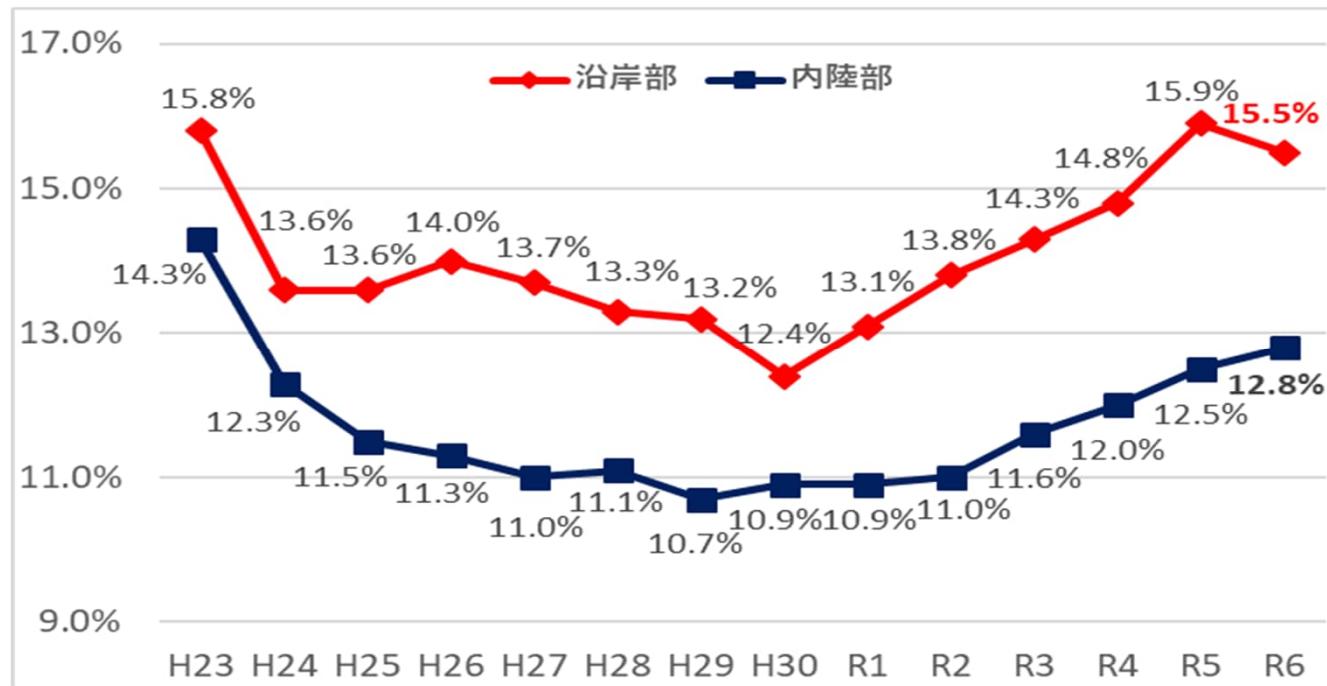
「いわて被災者支援センター」において、被災者一人ひとりの状況に応じた生活再建を支援

3 復興の課題及び今後の取組について②

■被災した子どもたちへの支援

被災による心のダメージのほか、震災に起因した家庭環境の変化等の影響を受けている児童・生徒へのスクールカウンセラー等の中長期的な対応が必要

[要サポート(※)児童・生徒の割合]



- ※「要サポート」とは
- ①「過覚醒」
(緊張や興奮が過度になる反応)
 - ②「再体験」
(出来事を思い出してつらいと思う反応)
 - ③「回避マヒ」
(喪失の否認)
 - ④「マイナス思考」
(否定的認知) のうち、
1項目以上に該当する反応を示した児童・生徒

子どもの心の問題を明確に切り分けることは難しいが、県が実施している「心とからだの健康観察」の調査結果では、沿岸部の要サポート児童・生徒の割合は依然として高く、震災後に出生した子どもにあっても、震災を経験した保護者等の心理面による影響が指摘されています。

スクールカウンセラー等の配置や「いわてこどもケアセンター」による丁寧な支援を実施

3 復興の課題及び今後の取組について③

■水産業の再生

未だ震災前の水準まで回復しておらず、危機的な状況

[主要魚種の漁獲量 ※ 震災前：H20～H22の平均値]

	震災前 [a]	令和6年 [b]	震災前比 [b/a]
サケ	25,053t	117t	0.5%
サンマ	52,240t	7,204t	13.8%
スルメイカ	18,547t	2,812t	15.2%



さけ稚魚の飼育の様子

[養殖生産量 ※ 震災前：H20～H22の平均値]

	震災前 [a]	令和6年度 [b]	震災前比 [b/a]
養殖生産量	47,478t	16,371t	34.5%

[アワビの漁獲量 ※ 震災前：H20～H22の平均値]

震災前 [a]	令和6年度 [b]	震災前比 [b/a]
343t	59t	17.2%

主要魚種の資源回復、増加している資源の有効利用、新たな漁業・養殖業の導入の3つを大きな柱として、関係団体等と連携した取組を推進

3 復興の課題及び今後の取組について④

■震災の伝承・発信

年月の経過により、震災の記憶や経験がない世代が増加し、震災の風化や関心の低下が懸念されます。

[令和7年「復興に関する意識調査」(岩手県実施)]

回答者の約5割が、震災の風化が「進んでいると感じる」「やや進んでいると感じる」と回答

【問】 あなたは、東日本大震災津波の風化が進んでいると感じますか。

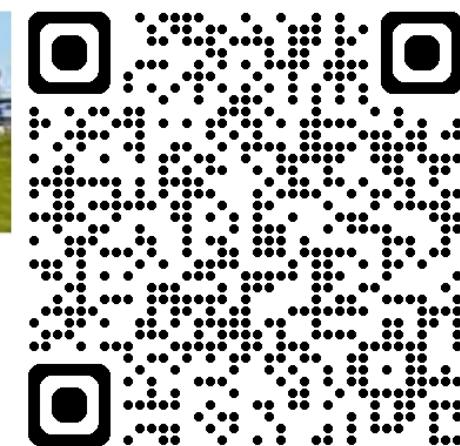


震災の風化防止や防災力向上に向けた情報発信、伝承・発信の担い手の確保や育成等を継続的に行っていく必要があります。

- 令和7年3月に新たに公開した震災伝承施設等紹介ウェブサイト「IWATE TSUTAERU」を活用し、三陸地域の周遊を促進する取組を実施
- 大学や海外津波博物館との連携や、東日本大震災津波伝承館を拠点とした県内震災伝承施設等への周遊機会の創出などを通じて、東日本大震災津波の事実・教訓を伝承する取組を永続的に実施



ウェブサイト IWATE TSUTAERU



QRコード

4 災害への備えについて

■復興防災DXの推進

災害対応力の強化のため、コミュニケーションアプリを使用した避難所の避難者受付のデジタル化や災害時のドローン活用など、復興防災DXを推進



コミュニケーションアプリやドローンの活用

■災害ケースマネジメントの推進体制の構築

東日本大震災津波の経験と教訓を踏まえ構築した「岩手県被災者台帳システム」を基盤としながら、被災者一人ひとりに寄り添った生活再建をより一層進めていくため、アウトリーチ人材の育成や広域的な支援体制等の整備など、災害ケースマネジメント推進体制を構築



令和6年度災害ケースマネジメント推進研修会

■日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震への備え

日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震に備えた地震・津波対策の推進のため、要支援者の個別避難計画の作成の促進、自動車避難のルール化、津波避難ビルの指定など津波による犠牲者ゼロに向けた取組を推進



津波避難訓練の様子